

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治二十七年六月八日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

局甲六九

明治廿七年六月七日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

吉田

外務大臣

大藏大臣

陸軍大臣

海軍大臣

文部大臣

逓信大臣

司法大臣

文書

内務大臣

逓信大臣

文書

司法大臣

文書

司法大臣

文書

司法大臣

文書

常備艦隊司令長官海軍中將伊東祐亨

今般朝鮮國ニ於テ亂民暴動同政府ノ力之ヲ鎮壓

スル能ハル趣確報ルニ依リ彼國駐在ノ我公使領

館

事館及帝國臣民保護ノ目的ヲ以テ軍艦ヲ派遣セシメラルニ付左ノ訓令ヲ遵奉スル事

一出兵ノ目的ハ公使館領事館及帝國臣民ヲ保護スルニ在リコトニ着眼スル

二公使館領事館及帝國臣民保護ノ手續ハ緊急ノ場合ニ於ケル臨機處分ノ外全權ニ使ト協議スルニ若意見合ハサルコトアルニ兵機ニ係ル場合ノ外使ノ議ニ從フ

三京城ノ外各所ノ居留帝國臣民ヲ保護スル必要アリ一々公使ト協議スルヲ得ル場合ニ於テハ該

地駐在ノ帝國領事ト協議スル但シ若公使若クハ領事ト協議ヲ經ルノ便宜ナキトキハ處分後報告スル

四公使館領事館及帝國臣民ヲ保護スル為メ正當防禦ヲ要スル場合ノ外ハ朝鮮國內亂ニ干渉スヘカラサルコトニ注意スル

五帝國公使ヨリ要求アルニキハ各國及朝鮮人民ヲモ場合ニ依リテ相當ノ保護ヲ與フ

六若朝鮮政府危急ニ至リ彼ヨリ我カ公使ヲ經テ救援ヲ求ムルコトアル場合ニ至ラハ更ニ公使ヨリ

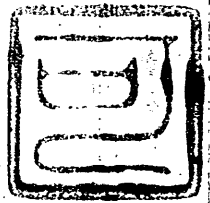
政府ノ旨ヲ傳フヘキニ依リ臨機鎮壓ノ處分及
スレ

七 若朝鮮國王又ハ其ノ貴顯又ハ各國駐在ノ官吏ニ
ニ目前ニ危急ノ場合ニ迫ルヲ見受ルトハ當然保
護ノ處分ヲ怠ルヘカラス

ハ若清國ヨリ出兵ノ事アリハ互ニ軍隊ノ相当ナル
敬禮ヲ守リ衝突ヲ避ケ細故ヲ以テ鄰誼ヲ敗
ラサルコトニ注意スヘシ

明治廿七年六月八日

内閣総理大臣



陸軍武官進級令第十六條ニ依リ今回ノ出
征中第一軍司令官陸軍大將伯爵山縣有朋ハ
部下上長官以下ノ進級補除ノ權ヲ御委
任ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治二十七年九月一日